

新栄町駅前地区市街地再開発事業推進による中心市街地の活性化に期待



自由民主党議員団
徳永 春男 議員

中心市街地の玄関口である
新栄町駅周辺再生の期待と効果

問 市街地再開発事業の推進に当たり、想定外の事故が発生した場合に政治的判断が求められた場合の市長の考えを聞きたい。

答 市政公約の都市生活環境の分野に、市街地再開発事業の促進などを通じた中心市街地の活性化を明記している。公約実現に向けては最大限の努力が必要と思っている。

何かがあったときは、そのときどきの社会情勢や財政状態等、総合的に勘案するが、市政公約を念頭に置き判断する必要があると考える。



井筒屋跡地

機構改革による「子ども
未来室」設置の考え方

問 子ども未来室としての結婚サポート業務の考え方を聞

きたい。

答 本市は、少子化が進展する中、安心して子どもを産み、育てることのできるまちの実現に向け、保健福祉部内に子ども未来室を設置した。

少子化の要因は、未婚者の増加や晩婚化、育児に対する負担感、仕事と子育ての両立に係る負担感などが言われている。

子ども未来室では、結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援を一元的に対応し、出会い・結婚に関する情報から、子育てに関する情報を適切に提供し、結婚意識の醸成を含め、妊娠・出産につながる少子化対策を行いたい。

ほ場整備推進担当の設置
に伴う事業推進への期待

問 ほ場整備事業推進の狙いと地元説明会を踏まえた中での問題点に対する基本的な考え方は。

答 ほ場整備事業の推進は、農業従事者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地等の課題に対応し、農業振興上でも大変意義のある事業と考える。

地元説明会での問題点は、26年度に実施したアンケート調査で約7割の賛同を得ており、残り約3割は負担金や後継者問題で賛同を得ていない。その対応として、負担が少な

い県営の中山間地域整備総合事業に取り組み、負担率を5%と予定している。仮に10アール当たりの事業費が約300万円とした場合の個人負担は15万円、さらに国等の交付金を活用し、ほ場整備にかかる個人負担を軽減したい。

「弁当の日」食に関する
正しい知識と食を選択する力

問 「弁当の日」またはこれに関連した取り組みと効果は。

答 本市では、遠足、学校行事等で給食のない日を活用し、子供を主体とした弁当の日に類する活動を行っている。

実施校は、小学校15校、中学校5校で、親子のコミュニケーションの機会がふえた、子供が自分で食材を選ぶようになった等の報告がある。

現在、食に関する正しい知識と判断力を身につけることの重要性が高まっており、今後とも、食育の充実を図りながら、「弁当の日」の事例を各学校で紹介していきたい。

地域(校区)に根ざした防災
意識の向上と防災士の育成

問 防災士養成支援の試みについて聞きたい。

答 防災士が地域の防災活動のリーダーとして活躍することで、さらなる地域防災力の向上につながると考えることから、防災士等の資格取得の補助については、他の自治体の取り組みを参考にし、前向きに検討したい。